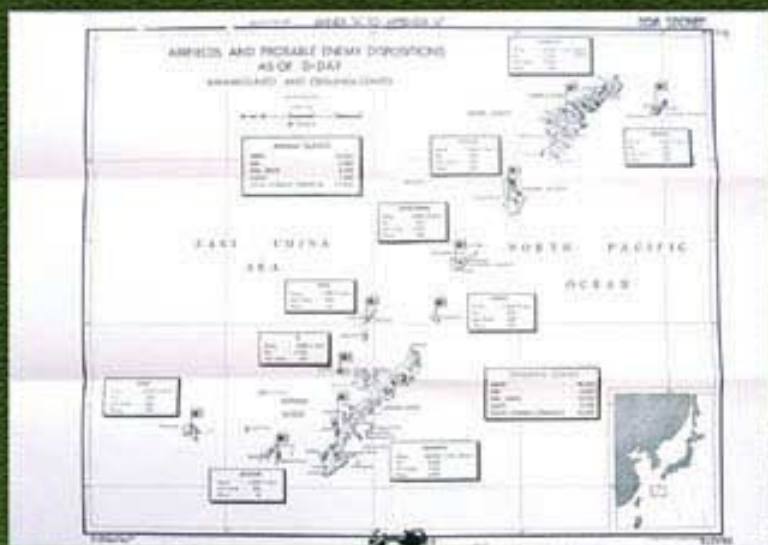


アーカイブズ

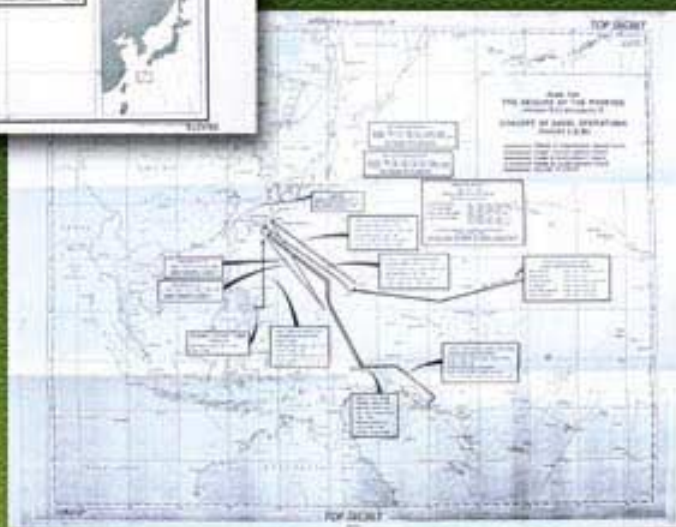
ARCHIVES

沖縄県公文書館だより 第28号

平成17年 6月30日発行



Airfields and probable enemy dispositions as of D-day
(上陸時における飛行場及び予想される敵の位置)



Concept of naval operation(海軍の作戦構想)

Plan for Seizure of the Ryukyus(琉球奪取計画) 000005687

1944年10月3日、米統合参謀本部は、ニミッツ元帥に対して「1945年3月1日までに琉球列島内で島を一つ、あるいはそれ以上占領するよう」指令を発しました。写真の文書は、統合参謀本部が1944年11月6日付で作成した上陸計画案に含まれる作戦図です。1945年1月6日に大平洋地域総司令部が作成した嘉手納・読谷地域を上陸地点とする「アイスバーグ作戦計画」が採用決定されるまで、緻密な作戦計画が立てられました。

就任あいさつ



ながた つとむ
館長 長田 勉

平成十七年四月一日、これまで一般行政の経験しかない私が、学問的で専門性が要求される公文書館長という職責が果たせるか、不安な気持ちとその責任の重さを噛みしめながら着任いたしました。

当館は、平成七年八月に開館し、今年が開館十年目となる節目の年を迎えます。その間、県内を始め国内外の関係者のご協力により琉球政府文書、沖縄県文書、琉球列島米国民政府文書（USCAR文書）、中琉関係檔案史料等を収集し、保存し、その整備に努めてまいりました。

公文書は、その時代、社会を映す鏡として、現在の人々に過去の

歴史を語りかけ、未来を啓示すると言われています。この歴史の証人である公文書等を保存し、後世へ託すことが公文書館の使命であると考えております。

今年、二十万人余の尊い人命を奪い、貴重な歴史資料や文化遺産を焼失させた沖縄戦が終結して六十年目に当たることから、当館では八月に「公文書等の記録資料に見る沖縄戦」をテーマに特別企画展を開催します。残された「記録資料」等を通して歴史を検証する社会的記憶装置として、県民に開かれた施設として、県民の皆様が過去の歴史を学ぶことにより、未来を展望する「機会と場所」として、公文書館が評価されるよう努力したいと思っております。

館を運営するには解決しなければならぬ多くの課題があります。微力ではありますが、県民の皆様が誰でも気軽に利用でき、県民に親しまれる公文書館運営を推進していきたいと考えています。今後とも、皆様のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成17年度 特別企画展

公文書等の記録資料に見る沖縄戦

～アイスバーグ作戦 Operation Iceberg～

「沖縄進攻作戦はこのようにして計画・実行・記録された」

沖縄戦終結から60年。今年度の特別企画展では、米軍が1945年3月から展開した沖縄進攻作戦計画「アイスバーグ作戦」を中心に、沖縄県公文書館が米国国立公文書館等から収集した沖縄戦関連資料をご紹介します。

場所 沖縄県公文書館 展示室

会期 平成17年8月2日(火)～10月2日(日)



降伏調印文書



アイスバーグ作戦計画書



戦闘の様子を撮影する従軍カメラマン

今年には沖縄戦終結からちょうど六十年の節目。巷では沖縄戦を検証するさまざまな企画や催し物が行われていて、当館でも、今夏、公文書等の記録資料に見る「沖縄戦」と題した企画展を開催する予定です。

「公文書等…」と銘打ったのは、言うまでもなく、公文書の保存利用機関としての当館の特色を出そうという狙いがあります。そして、中心となる展示資料も、当館がアメリカにおいて独自に集めてきた文書、写真、映像フィルムなどで、他ではなかなか見ることができないものばかりです。

さて、資料と言え、沖縄戦において、日米両軍は作戦遂行のために膨大な文書を作成しました。しかし、勝者と敗者の違い、記録管理体制の違いなどから、残された記録の量には大きな差が生じることとなりました。

アメリカでは、沖縄戦が始まる十年以上も前にすでに国立公文書館が開館し、軍部を含めた連邦政府の記録管理体制が出来上がっていました。戦争という特殊な状況の中でさえ、作られる公文書の行き先はきちんと決まっていたのです。また、アメリカは、南北戦争や第一次世界大戦の経験から、国家としての「体験」を記録することの重要性を認識していました。そのために、大学教授や歴史家などから成る歴史部隊を配属し、戦闘の様子を写真やフィルムに収めただけでなく、兵隊の生の声も記録していきました。

アメリカ駐在員連載コラム
アメリカ通信 No.17
「記録無くして“歴史”なし」

現在、それらの記録は米国立公文書館に納められ、誰でも自由に閲覧できるようになっています。そのうち、各部隊ごとに作戦の詳細を記録した「アクション・レポート」は、陸軍全体で二万箱以上あり、その中に沖縄戦に関する箱が少なくとも五百四十八箱あります。海軍では約千七百箱のうち三百八十七箱、海兵隊では約三百六十箱のうち四十九箱が沖縄戦に関するものです。その他、作戦の計画、軍政医療、諜報活動などの記録を含めると、その量は数倍に膨れ上がります。また、現時点で分かっているだけでも、写真約一万二千枚、映像フィルム約千本、空中写真約三千二百枚が残されています。

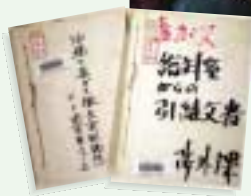
一方、日本側の記録の多くは、爆撃や戦闘の最中に失われてしまいました。中には、作戦を敵に知られないようにするために、軍命により故意に廃却されたものもありました。廃却を免れた記録は、米軍によって没収され、その大部分が日本政府に返還されましたが、質量の点から米軍のそれとは比較になりません。

このような状況のため、沖縄戦に関する新たな事実が米軍の記録から明らかにすることも少なくありません。よく「記録無くして歴史なし」(No records, no history)と言われますが、これらアメリカ側の記録が残されていなかったら、我々の沖縄戦の記憶も今とは違うものになっていたかも知れません。

(公文書専門員・仲本和彦 米国防駐在)

一人に聞きました

津波古充勝(つなみふるみつ)さんは、元県庁職員で、琉球政府文書の保存に深く関わった方です。当時の思い出を語っていただきました。



琉球政府を経て沖縄県職員時代に関わった最も印象に残る事業は？

復帰前の毒ガス輸送(本土復帰記念式典若夏国体、730(交通方法変更)、海邦国体等行政の主な事業に関わった。中でも毒ガス移送の時は、涉外課で涉外調査官として働き、地域住民への説明会や経済的損失に関する補償の交渉を担当しました。復帰までに沖縄から毒ガスをすべて撤去する必要があるという思いで住民を説得して回ったが、その危険性をなかなか理解してもらえず、とても苦労しました。

文書管理について、琉球政府時代、米国のファイリングシステムの影響は受けなかったのですか？

職員研修に、琉球政府が行う研修、日

本政府による研修、米国民政府による研修があった。米国へは主に医療関係者が行き、私は日政援助で本土へ文書管理システムに関する研修に三ヶ月行かせてもらった。米国防治時代といっても文書管理や編綴法などは殆ど日本の方式を採用していた。ただ、現在と違うのは文書課に翻訳官がいた。米国民政府の文書はすべて翻訳され、各部署に配布されるというシステムであった。

琉球政府文書の保存について苦労した事は何ですか？

復帰前は、職員の多くは復帰に伴う様々な業務に追われ、過去の文書のことまではとても手が回らなかったし、ましてやそれを保存しようという意識もなかったのではないかと思う。それに、行政の手続き等は復帰後も継続して行われており、一部の文書は手元に置いておかなければ仕事にならないものもあった。あの時は捨てないようにと文書で依頼するだけで、実際には何もできない状況であった。

公文書館職員へ期待するものは？

琉球政府文書は、沖縄の戦後の歴史を記録した行政文書であり、公文書館設立のキッカケともなった資料である。これだけの資料を残すことができたのは、多くの人々の熱意があったからであり、しっかり保管して、県の行政や歴史研究に役立てられる工夫をしてほしい。我々ができなかったことを引き継いで、日々研鑽努力していただきたい。

どうもありがとうございました！

沖縄戦関連資料

～在米国沖縄関係収集資料より～

戦後60年という節目を迎え、沖縄戦への関心が高まっています。沖縄県公文書館では、1997年から米国国立公文書館（NARA）を中心に、米国から沖縄戦関連資料の収集を行ってきました。これまで、USCAR文書をはじめとする米国政府の沖縄統治関係資料の調査・収集を行っていますが、沖縄戦は、米国の沖縄統治の始まりであり、沖縄戦関連資料は、戦後27年間の沖縄統治政策への対応を知る上で、大切な役割を果たしています。今回は収集資料を、文書、写真、映像、空中写真の4つに分けてご紹介します。



文書

沖縄戦は、米軍の陸海空軍総力を結集した戦闘でした。米国は、1910年代から沖縄を対日本攻撃の作戦基地として重視し、長い歳月をかけて緻密な準備を進めていきました。米軍上層部である総合参謀本部の決定、各部隊の戦闘報告書、基地建設図など、沖縄戦の計画から実行、その後占領するまでの過程を見ることができます。

[沖縄上陸に始まる米軍沖縄占領一年をまとめた小冊子 0000025603]

写真

従軍カメラマンが撮影した写真を、NARAを中心に収集しています。写真は被写体だけでなく、背景に映る住宅、道路など建築に関する情報や、地勢など情報を含む重要な資料となっています。沖縄戦関係写真は、1945年に撮影された写真を中心に約4,000枚公開しています。

[カムフラージュされた溝で発見された住民 0000008337]



映像

映像資料は、従軍カメラマンが撮影した未編集フィルム、これらを編集・制作した広報映画、ニュース映画の3つに大きく分かります。これまでに60巻を公開しています。平成16年度に新たに59巻を収集し、うち27巻を6月に公開しました。

[名護に入る米軍。このフィルムでは4月5日から二日間、恩納村や名護における戦闘の様子を記録している 0000017716]





空中写真

空中写真は、作戦地図に必要な地形情報を得るために撮影されました。1944年9月から1945年にかけて撮影された空中写真3,213枚を収集・公開しています。

[石垣島には戦前、日本軍が沖縄に建設した15の飛行場のうち、3つの飛行場がありました。空中写真でその姿を確認することができます。飛行場跡地は、現在、石垣空港として使用されています。
海軍石垣島南飛行場(平得飛行場) 0000020808、0000020810]

米国収集沖縄戦関連資料一覧

公文書は、米国国立公文書館などから収集したものです。私文書は、米国の沖縄統治機関に在職した個人などから寄贈されたものです。

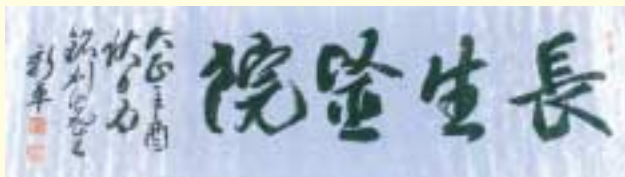
	出 処	資 料 名	数 量		出 処	資 料 名	数 量	
公 文 書	陸 軍	写真資料	1,299枚	公 文 書	米 国 議 会	モートン・L・デイヨ文書	1件	
		陸軍地上部隊司令部謀報報告書	15件			ノールズ文書	1件	
		通信隊映像資料	2件			上陸作戦地図	1件	
		航空隊映像資料	37件			憲兵隊長文書	1件	
		工兵局米軍作戦地図	84件		国 家 安 全 保 障 局	日本軍無線傍受日報	39件	
		工兵局 / 報告書、部隊史、指示書類	6件			海 兵 隊	写真資料	1,587枚
		工兵局 / 基地、飛行場建設関係	12件		国防謀報局		空中写真	3,213枚
		工兵局 / 雑書	4件		総合参謀本部		地域別ファイル1942-1945	25件
		工兵局 / 計画、作戦に関する極秘文書	7件		財 務 省	映像資料	2件	
		基地建設関連写真	2件			戦 略 情 報 室	映像資料	9件
	戦闘地域関連文書	34件	私 文 書	エドワード・フライマス	軍政報告書、降伏宣伝ピラ、写真など		27件	
	陸軍長官室映像資料	8件		ゴードン・ワーナー	空中写真、映像フィルム	84件		
	運輸局長室歴史的プログラム	15件			トーマス・マーフィン	米軍作戦地図、写真など	35件	
	海 軍	写真資料		278枚				
海軍作戦部長室		218枚						
沿岸警備隊写真資料		48枚						
空 軍	写真資料	727枚						
	歴史調査センター沖縄戦関連資料	98件						

『銘苅正太郎関連資料集』

平成十七年三月、当館所蔵資料を使用して『銘苅正太郎関連資料集』が伊是名村教育委員会より発行されました。これらは、平成十四年五月、東京在住の銘苅マキ氏より銘苅正太郎氏の辞令書・証書等六十八点が当館へ寄贈された資料を紹介したものです。当館では、整理・登録し、一般の利用に供していましたが、この度、寄贈の労を取って下さった名嘉正八郎氏の解説と写真資料により、より多くの方々を利用して頂けるようになりました。

銘苅正太郎は、明治九年（一八七六年）十一月三日、伊平屋島伊是名村で生まれ、明治三十七年、二十八歳のとき医師免許を取得しました。福島県岩瀬郡立病院、山梨県立病院など各地で医師を務め、大正四年から東京の岸病院で耳鼻咽喉科の専門的な研修を受けました。その後、政治家で医者の後藤新平と出会い、親交を深めました。後藤の勧めで東京市麻布に耳鼻咽喉科「長生医院」を開院し、医者として活躍するかたわら、沖縄県民のために物心両面にかたり尽力されました。特に、昭和八

年井野知事時代に作成された「沖縄県振興十五年計画」には、日頃親交の厚かった後藤新平や高橋是清など当時の日本の政界上層部に直接沖縄の窮状を訴え、援助を要請するなど大きな役割を果たしました。今回紹介された辞令書・証書などは、異郷の地において医業の傍ら郷里沖縄のために尽力した銘苅正太郎の生涯を窺い知る貴重な資料であり、後藤新平や犬養木堂（毅）から贈られた書などは、その親交の厚さを物語るものであります。



「長生医院」後藤新平の書(大正10年) 0000010117

後藤新平(1857～1929 医師・政治家。岩手県出身、台湾総督府民政局長、初代満鉄総裁、歴代内閣の通相、内相、外相を歴任)は銘苅氏の仕事ぶりに関心して援助を惜しまなかった。医院名(長生医院)も後藤が命名した。

閲覧室



公文書館の閲覧室は広々と見晴らしもよく、静かで快適な環境です。閲覧窓口に電話や手紙、ファクシミリ等、県内外から多くの質問が寄せられます。今回、これまでに受けたレファレンスから主なものを紹介します。

Q 一九七五年に開催された海洋博の写真を出版物に掲載したいのですが、写真資料はありますか。

A (財)沖縄国際海洋博覧会協会文書の中に写真のネガフィルムがあります。ネガフィルムはライトテーブルで閲覧した後、希望の写真があればプリントすることができます。

Q 復帰前、石川市で起こったジェット機墜落事故に関する写真資料はありますか。

A 琉球政府関係写真資料及び米国国立公文書館より収集した写真の中に、当時の太田行政主席が被害

者を見舞う様子の写真があります。但し、個人情報については、非公開部分があります。また写真ではありませんが、事故後の様子が撮影された映像資料があり、館内で閲覧することができます。

Q 一九六九年の市町村合併促進協議会の答申書はありますか。

A 琉球政府文書の中に市町村合併促進協議会長より行政主席に宛てた答申書があります。(R00002600B)



琉球政府文書の現状と保存対策のこれから

琉球政府文書は、沖縄の戦後復興期の歴史を物語る貴重な資料です。1972年、琉球政府の閉庁にともないこれらの行政文書は沖縄県に引き渡され保存されることになりました。その後、琉球政府文書は度々水害や虫菌類による被害を受け、現在残されている15万簿冊余（土地所有申請書等を除く）の資料の中には今まさに朽ちる寸前のものも少なくありません。

そこで、当館では、平成15・16年度にわたって琉球政府文書の保存対策を進めるため、簿冊1点1点の保存状態を調べました（この調査は沖縄県緊急地域雇用創出特別事業により実現）。その結果、調査した簿冊総数149,460冊のうち利用できないほど劣化している資料172冊、また利用に際して慎重を期すものや一部文字が判読できないほど褪色している資料2,106冊を特定することができました。調査ではさらに個々の簿冊に含まれる青焼きや湿式コピー、写真等の分量の多少や、カビ、虫食い、泥や埃による汚損、サビ、セロハンテープによる汚損、綴りの崩れ、貼紙の剥離、紙の折れや破れ、水濡れの痕、インク焼け、フォクシング等をチェックしました。これらの情報はデータベース化され、後に保存処置や修復、複製等の計画をたてるために活用されます。

一方、平成15年度には琉球政府文書の素材調査を実施しました。この調査では、文書を構成している紙の素材や性質、保存状態、筆記具の種類、その他の劣化要因等をサンプリングして記録し、さらに紙の強度試験を行って将来の劣化予測を試みました。その結果、琉球政府文書の多くはざら紙やトレーシングペーパー等の下級紙を多く含み、長期保存には不向きな材質であることがはっきりしました。それでもこれらを将来にわたって保存するにはどういう手当を施すべきか、現在検討しているところです。

そこで、今回から3回にわたり、上記2つの調査結果をもとに琉球政府文書の現状とこれからの保存対策についてご紹介したいと思います。

琉球政府文書の劣化状況

現在、琉球政府文書の中には下の写真のように利用できないほど著しく劣化しているものが相当数含まれています。文書を傷めた主な原因には、カビやシロアリ等の被害、金具やセロハンテープ等による浸食、または素材自身の問題等がありますが、いずれにせよ長期間湿気の多いじめじめした環境に置かれていたことで急速に劣化が進んだものと思われます。



表紙からはみ出した紙の劣化
修復して紙の強化を図る。



セロハンテープによる汚損
粘着物質を除去し、破損箇所を修復する。



湿式コピーの銀鏡化現象
現状以上の反応が進む前にマイクログラフなどで複製を作成する。



金属製ファスナーによるサビの害
焼けた部分を取り除き、修復する。



シロアリの被害
クリーニングし欠損部分を修復する。



カビの被害
クリーニングと滅菌処理を行う。

これらの資料は、まず応急処置を施した後、各々の劣化状況に応じて保存処置や修復、複製の作成等を行っていきます。これまで利用できなかった資料を1日も早く利用していただけるよう、より効果的な方法を検討しその準備を始めたところです。

（修復士：大湾ゆかり）

催しもの案内

映写会 「沖縄戦関係映像フィルム」

当館が、これまで収集した沖縄戦に関する映像資料を紹介します。

日時 平成17年8月5日(金)
午後6時～6時30分

場所 沖縄県公文書館 講堂
(入場無料)



講座 「冊封体制と琉球王国」

400年余にわたる冊封体制のもとで築かれた琉球と中国との関係を3回にわたって解説します。
(電話予約が必要です。)

講師 赤嶺 守(琉球大学教授)

日時 平成17年6月30日(木)
7月7日(木)
7月14日(木)(全3回) 午後6時半～8時

場所 沖縄県公文書館 講堂(入場無料)

講演会 「戦場彷徨十四日間」

1945年6月、糸満で負傷し、米軍に収容されるまで戦場を彷徨った体験を中心に語っていただきます。



講師 船越 義敦(作家)

日時 平成17年8月5日(金)
午後6時半～8時

場所 沖縄県公文書館 講堂(入場無料)

資料保存講習会 「資料のクリーニングと防虫対策」

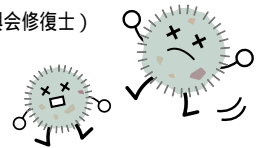
大切に保存したい資料は、ちょっとした心配りや取扱い方で長持ちさせることができます。講習会では、最新の防虫対策情報を紹介し、紙資料の簡単なクリーニング方法について実習を行います。(電話予約が必要です。)

講師 大湾ゆかり((財)沖縄県文化振興会修復士)

日時 平成17年8月10日(水)

会場 沖縄県公文書館 講堂

定員 40名



利用案内

● 入館無料

● 開館時間 9:00～17:00
(閲覧請求は16:30まで)

● 休館日

- ・毎週月曜日
- ・国民の祝日である休日
(月曜日にあたる場合はその翌日)
- ・6月23日慰霊の日
(月曜日にあたる場合はその翌日)
- ・12月28日～1月4日
- ・特別整理期間(年間20日以内)

● 閲覧室の利用方法

書庫内にある資料を閲覧申請するには「利用証」が必要です。「利用証」の発行にあたっては住所等の確認ができる身分証明書(運転免許証や学生証等)の提示をお願いします。参考資料室の資料を利用する際には閲覧申請の必要はありません。閲覧室での筆記用具は鉛筆をご使用ください。鉛筆やメモ用紙等は閲覧室に用意してあります。原則として資料の館外貸出は行っておりません。閲覧及び複写でご利用ください。(複写は実費を頂きます。)鞆等の所持品はロッカー(無料)にお預けください。

2005年 7月							2005年 8月							2005年 9月							
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
					1	2		1	2	3	4	5	6						1	2	3
3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10	
10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17	
17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24	
24	25	26	27	28	29	30	28	29	30	31				25	26	27	28	29	30		

赤字の日は休館日です。

● 交通の案内

- バスをご利用の方は新川バス下車 徒歩1分
- ・那覇バス(株) 市内線1番
- ・東陽バス(株) 91番



アーカイブズ

沖縄県公文書館だより **ARCHIVES** 第28号

発行日 平成17年6月30日

発行 沖縄県公文書館

編集 財団法人沖縄県文化振興会 公文書管理部
〒901-1105 沖縄県南風原町字新川148-3
TEL 098(888)3875 FAX 098(888)3879
URL <http://www.archives.pref.okinawa.jp>